

第11号
児童数 328名
(男188名女140)



のぶっ子

みんなが主役・みんなで学ぶ学校

あいことば: あいあい大作戦 スローガン: やさしく かしく たくましく

〒311-2442
潮来市小泉2090

Tel :0299-66-2076

Fax:0299-66-4692

URL:https://www.itako-school.jp/nobukata-el/



毎週 2 回 回 間 運 動 で 縄 跳 び を 行 っ て います。寒さに負けず頑張っています。



不審者対応の避難訓練を行いました。スクールサポーターの皆藤さんから講話を頂きました。



あいあいタイムと6時間目を合わせて60分授業をしています。保護者ボランティアの方に教えていただいています。



昼休みには、体育委員会主催のスポーツチャレンジを行っています。投力アップを目指しています。



図書委員会がキャンペーンをやっています。本を借りて当たりくじを引くと鬼のお面キットがもらえます。



3年生が行方警察署に行きました。仕事内容や道具についてたくさん質問し、理解を深めました。

県校長会主催の茨城県教育振興大会で、(株)ひたちなか海浜鉄道(以下、湊線)代表取締役社長 吉田千秋 氏の講演を聴きました。全国初の公募鉄道会社社長として手腕を振るい、10年後には「瀕死のローカル線」を黒字化。さらに昨年11月には、地方鉄道としては全国的にも異例の鉄道延伸事業(国営ひたち海浜公園方面)が国に認可されました。「どんなカリスマ経営者なのだろう」と期待していましたが、講演を聴いた後、その印象が大きく変わりました。

ちょっと鈍感なところはあります

公募に応募したときの気持ちや、地域や社員との関わり、これまでの苦勞について伺いたく、挙手しようと身構えていたのですが、司会者は質疑応答の時間を取ることなく謝辞に移り、会が終了してしまいました。帰校後、無礼を承知で吉田氏にメールを送ると、すぐに返信をいただきました。その中には、『ありがたいことに、まわりのみなさんのフォローがあり、特に苦勞していないのが実感です。まあ、ちょっと鈍感なところはありますが。』と記されていました。

行政は、「お役所仕事」になるのは当たり前

吉田氏は大学卒業後、昭和63年 富山地方鉄道に入社。その後、加越能鉄道に出向し、平成13年 加越能鉄道の分社化にともない、万葉線へ転籍されました。万葉線では行政や市民との調整も担当し、『住民は鉄道事業には詳しくないのだから、わからないことを言うのは当たり前、行政はお役所なんだから』お役所仕事になるのは当たり前』と肯定して仕事をしていたそうです。その後、湊線の第三セクター化に伴い、万葉線の視察に来た茨城県とひたちなか市の人々を案内したことが縁で、湊線の社長公募に応じ、平成20年から現職。さらに平成24年からは、国交省関東運輸局 地域公共交通マイスターとして、その知識と経験を広めていらっしゃいます。

猫にもやさしい社長

『社長の椅子が奪われる!』などと、湊線の日常を社長自らも投稿するSNSが人気で、「おらが湊鉄道応援団」FaceBook のフォロワー数は1.5万人を超えています。社長の椅子を奪うのは、駅に住み着いた元野良猫で、椅子を奪わなくてもいいようにベッドを用意したり、獣医さんのアドバイスをもらったりしているそうです。湊線の社長に選ばれたのは、『協調性とか、誰かを切り捨てないとか、行政とも上手くやれるといったことが買われたのだと思う。』とおっしゃっていますが、そのやさしい姿勢は、人にも猫にも向けられていると感じます。

収益になるかわからない所には手を出さない

湊線の車両には、統一ブランドカラーやラッピングなどは施されていません。その理由は「費用がかかるから」。日頃から中古車両の出物がないかどうかチェックするなど、徹底したコストカットを図っています。一方で、お客様の要望にはできる限り応えています。例えば、古河市から海洋高校に通いたいという高校生の希望に応じ、発車時刻を4分遅らせたり、第三セクター線では珍しい23時台の終電を運行したりと、利便性向上にも力を入れています。現在では宇都宮や船橋から通う高校生もいるそうです。

線路は続くよどこまでも

吉田氏はこう語ります。『どうしてここまでこられたのかな、と振り返ってみると… やはり、鉄道業務をどこまで緩やかにできるかを考えて、みなさんのアイデアや要望を取り入れてきたことが大きいかな、と思います。業界では、「こんなことを言っているのは鉄道業界だけ」「なんでこんなことにこだわっているんだろう」といったことが結構あります。市民の方や社員からいろいろアイデアや要望が出てきたとき、自分の頭の中で「それはそうと、ここまでは大丈夫だろう」ということを念頭に入れて、可能な限り取り入れたことが、みなさんの応援する気持ちにつながり、輪が大きくなっていったのでは、と思います。』

現在、国営ひたち海浜公園周辺では、工業団地の開発や半導体関連工場の建設、新たなまちづくり等が進められています。「天地自然の理にかなった経営」は、多くの応援団に支えられるとともに、ますます地域の発展を支えて行くことになるでしょう。

【参考】NHK 水戸放送局茨城 WEB 特集「ひたちなか海浜鉄道 異例の延伸へ工事認可 2030 年開業へ」2024.11.19
東洋経済ONLINE 「瀕死のローカル線」を黒字化した男の経営手腕 2019.4.13
文春オンライン奇跡のローカル線「ひたちなか海浜鉄道」社長が語る「猫の相棒」と「延伸計画の勝算」2019.2.24



